

名 称	大野子ども体験活動・ボランティア活動支援センター
所在地	〒739-0478 広島県廿日市市大野 1328 番地 大野公民館内
連絡先	TEL : 0829-20-0001 FAX : 0829-32-5163

地域の現状・特色

活動対象地域の人口 広島県廿日市市大野地域 27,000人

広島県西部に位置する廿日市市は、平成17年11月、廿日市市・旧宮島町(世界遺産宮島)・旧大野町が合併し、人口11万8千人、海のめぐみ山の緑に包まれた自然の豊かさを残しながらも、近代的な都市機能を備えた中核都市として発展しつつある。合併後も、各地域の持ち味を活かし、産業・観光に力を注いでいる。

大野地域では、平成14年に「子どもが輝くまちづくり」をスローガンに掲げ、官民協働で未来を担う子どもたちを育むため、大野子ども体験活動・ボランティア活動支援センターを開所した。合併後も変わらず廿日市市子どもの居場所づくり事業と連携して活動を続けている。

コーディネートした事例の名称、概要、特色

名称「中学生の企画によるキャリアアップ講座」～学びを還元！もらいっぱなしにしない～

大野子ども体験活動・ボランティア活動支援センターの活動から生まれた“子どもたちが自らが考え仲間と共に活動する”大野子どもクラブ「ビッグ・フィールド大野隊」は、活動そのものより活動を始めるまでの過程を大切に、失敗することも学びのうちと捉え様々な活動をしている。

地域の大人の方たちには「見守り隊」となって、「子どもたちをお客様にしない」「使う前より美しく」をモットーに子どもたちの自発性が育つよう、子どもたちが考え行動する様子をじっと待ちなるべく手出し・口出ししないよう見守って頂くようお願いし、活動を継続している。

その結果、子どもたちは様々な体験活動やボランティア活動を通して自己肯定感や役立ち感を体得し、現在では、“学んだ事を仲間や地域に還元する”ことを念頭に入れ、学びの定着や感謝の気持ちを活動で表せるよう、場の設定を心がけている。

体験活動の内容としては・・・

1泊2日の合宿をビッグ・フィールド大野隊の中学生が企画提案した。前年度、広島県教

育委員会主催のパイオニアスピリット養成事業（広島県出身の著名人を講師に、将来への夢や、一人一人のスキルアップを図る講座等）にビッグ・フィールド大野隊から3人が選ばれて参加したことにより、その学びを仲間に伝え、後輩に活動を受け継いでいってもらう目的で計画した。合宿の中で90分授業を6講座設定し、地域内外のイベント等に参加する時に一人一人が活躍できるよう接遇やプレゼンテーション能力を身につける講座を実施。合宿時の食事は学年別で担当、細工寿司の実習なども盛り込んだ。

コーディネートの実際

ビッグ・フィールド大野隊の中学2年生から、自分たちが学んだことを仲間に伝え、後輩に活動を受け継いでいってもらうために1泊2日の合宿をしたいと申し入れがあった。

代表として参加した事業で学んできたことを、そのままにせず仲間に還元することにより、自らの学びが深まると思えたこと、また、長時間ともに過ごすことにより、活動の充実や仲間意識が深まると思えたことから実施に踏み切った。

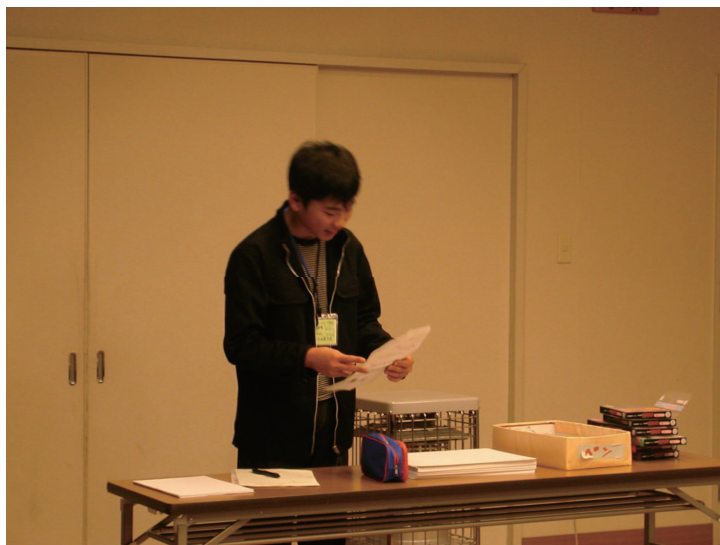
正月明けで、真冬ということもあり、保護者・見守り隊への理解・協力を得るため、センターからの依頼文に、子どもたちからのお願いの手紙や企画案を加え、合宿への熱意を伝えるようにした。

合宿は地域の集会所を借りて実施した。2日間の食事献立とその予算も子どもたちに企画させたが、学年ごとに当番を決め、先輩たちから任されたことで、学年ごとのチームワークづくりにも効果があった。

講座は6講座で具体的な内容は次のとおり。①アイスブレイクって？、②自己紹介(自己アピールの仕方を学ぶ1)、③パソコンを使って速報作り(2回発行)、④細工寿司実習「福笑い雪だるま」(「全国家庭教育フォーラム in 広島」参加のための実技練習)、⑤チーム対抗連絡網伝言ゲーム、⑥将来の夢(自己アピールの仕方を学ぶ2)。緩急を考えた講座の組み方、講師となる中学生みんながそれぞれ活躍できる場づくりなど、実によく工夫をしていた。

当初、小学1年生が90分の授業に耐えられるのか、また中学生が教えきれぬのか不安ではあったが、合宿を実施したことで、一人一人のキャリアアップはもちろんのこと、教えた中学生にも、学んだ小学生にも双方に大きな学びの時間となった。子どもたちにとって90分は大変長い時間にも関わらず、身じろぎもせず聞き入る姿、また、人の話を聞く時の姿勢や態度について真剣に教え教わる姿、変化していく姿に、子どもたちの縦社会のすばらしさを改めて確信した。日頃、大人の注意はなかなか聞かれない子どももなぜか先輩の言葉はしっかり受け止めていた。教わる方も教える方も共に頑張る姿に、異年齢集団の大切さを再確認できた。

講師として頑張る中学生の姿を眺めながら、今後もパイオニアスピリット事業等、子どもたちに学びの機会を提供するとともに、すばらしい研修や講師との出会いの場づくりが求められると感じた。そして、学びを還元する場の提供も不可欠であることを感じている。



講師として活躍する中学生



小学生のグループワークの様子

執筆者職・氏名：大野子ども体験活動・ボランティア活動支援センター
コーディネーター 川田 裕子